VOL.132

ぼくたち わたしたちの

みちしるべ

~Run to the FUTURE~

令和5年9月・10月号発行

発行元

早稲田育英ゼミナール

0120-198176

www.wasedaikuei.co.jp

全国のみんなこんにちは!!

日中はまだまだ夏と変わらず暑い日が続いていますが、だんだんと日が落ちるのもはやくなり、朝晩は比較的過ごしやすくなりました。「秋の日はつるべ落とし」といって、秋は他の季節に比べてとても速く日が暮れるように感じます。つるべ(釣瓶)とは、井戸で水をくみ上げるために使われる道具のことで、このつるべが、井戸の中に素早く落ちる様子が秋の日暮れのようなので、「秋の日はつるべ落とし」と言われるのです。

現代を生きる私たちはつるべなど、昔の日本人が使っていた道具に親しみがあまりありません。歴史博物館などに行って、昔の文化・生活を勉強するというのもよさそうですね。ひょんなことから歴史に興味を持つようになるかもしれません。

中学生おすすめ小説

「桐島、部活やめるってよ」　朝井リョウ

男子バレー部のキャプテンであり、人気者の桐島が部活をやめることをきっかけに、同級生たちの日常に些細な変化が起きていく青春小説。

大人にとってはなんてことない些細な出来事も、高校生にとっては一つ一つが大きく、鮮烈なことに感じたりするもの。

人気者と、そうでない者のクラス内格差、「スクールカースト」の存在を世に定着させた作品ではないでしょうか。

そんな短く輝かしい中学生や高校生時代の、その時にしか感じられない甘酸っぱいような体験を分かち合える小説となっています。

「弱くても勝てます」　高橋秀実

東京大学合格者数1位の超進学校・開成高校の運動部って、どんな環境だと思いますか?

練習時間も設備も不十分、フツーにやってたら勝てるわけがない。秀才たちが勝つためにたどり着いた作戦とは?秀才ならでは(?)の解決策が面白いです。

根性や熱血が語られがちなスポーツ系小説とは一線を画す、常識に縛られず、自分たちならどうするか、何ができるか考えることの大切さを教えてくれるノンフィクション作品です。部活をする中学生でも感情移入しやすい内容です。

「アルジャーノンに花束を」　ダニエルキイス

1959年に発表されて以来、人気が続くファンタジー小説です。

知的障害を持つチャーリィは、知能指数が上がるという脳手術を受けることに。術後、知能指数は飛躍的に向上するのですが、今までチャーリィには見えていなかったものが見え始めます。知能を持つことの意味が、残酷なまでに鋭く描写されています。学ぶことの意味や目的について考え始める中学生に、ぜひおすすめしたい1冊です。

「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」　ブレイディみかこ

2019年の出版以来、瞬く間に話題となった大人気小説。

英国のとある街、「元・底辺中学校」に通う息子の日常を、パンクな「母ちゃん」の目線から描いたノンフィクション作品です。

人種差別、ジェンダー問題、貧富の差やアイデンティティ。小さな街の公立学校で日々巻き起こる世界の縮図のような問題に日々ぶち当たりながらも、中学生の息子は悩みながらも子どもらしい柔軟な感性で問題に向き合っていく。

「多様性」とは何か、を考える初めの一歩に最適な、読みやすい語り口の作品です。

「こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち」　渡辺一史

障害者は、ワガママ言ってはいけないの?健常者は、障害者に優しくしないといけないの?

正しく、美しく描かれがちな障害者福祉の世界を、とことんリアルに、時に息苦しくなるくらい鮮明に描いたノンフィクション小説です。

重度の筋ジストロフィー患者であり、究極の自由を求める鹿野靖明さんと、そんな彼に振り回されながらも彼の真っ直ぐさに惹かれていく、様々な立場のボランティアたちとの「戦い」とも言える介助の日々が綴られています。中学生が普通の生活だけではなかなか知り得ない世界を描き、映画化もされた人気作品です。

「夢をかなえるゾウ」　水野敬也

なんとなく「成功」したいけど、どうしたらいいかわからないという中学生におすすめ。普通のサラリーマンである「僕」の前に現れたのは、怪しい関西弁を喋る「神様」、ガネーシャ。

「僕」の人生を変えるためにガネーシャが提示する課題は、「トイレ掃除をする」や「腹八分に抑える」といった、決して一つ一つは難しくない、中学生にだってできること。

内容は大人向けですが、読みやすく面白い文章なので、中学生にもおすすめできる人気小説です。

「変身」　東野圭吾

拳銃で撃たれ、3週間も昏睡状態にあった成瀬純一が目覚めるところから物語が始まります。奇跡的に命は助かり、穏やかな日々がまた続いていくと思われたが、日を追うごとに、嗜好が変わって行ったり、今までの自分の感覚とは異なる違和感が増えていく。

穏やかだった性格は攻撃的になり、恋愛も以前と同じにはできなくなってしまった。自分自身が崩壊していくのを止められない恐怖と、この先どうなっていくかの興味で、ページを繰る手を止めさせません。ファンタジーというよりはミステリー好きの中学生におすすめの小説です。

「青空のむこう」　アレックス・シアラー

突然の事故で死んでしまった少年ハリーが、死後の世界で友達になったアーサーと共に、「やり残したこと」を探しに「生者の国」へ戻ってくる。

人間の生死が描かれた作品ではありますが、登場人物や死後の世界の設定がユーモラスに描かれているので、楽しく読み進めることができます。

自分や周りの人の生死についても考え始める中学生の時期に、一度読んでおきたいおすすめの大人気ファンタジー小説です。

内容や、使われている言葉は難しいものではなく、スラスラと読めるので、読書感想文が苦手な中学生にもおすすめな小説と言えます。

「君の膵臓をたべたい」　住野よる

人付き合いが苦手で、友達もほとんどいない「僕」が主人公の恋愛・青春小説。

ある日病院の待合室で、同じ学校の人気者のクラスメイト、山内桜良が書いた「共病文庫」という本を見つけます。

そこで桜良が膵臓の病気で余命が残りわずかであることを知ります。明るくわがままな桜良に振り回されながらも、桜良の「死ぬ前にやりたいことリスト」に付き合う僕。

人付き合いが苦手だった「僕」と桜良が関わることで、互いに成長していく姿、そして衝撃的なタイトルの意味に、涙が止まらなくなるかもしれません。映画化もされた大人気小説です。

「舟を編む」　三浦しをん

人とのコミュニケーションは苦手だが、下宿先のアパートは本で埋め尽くされ、大学院で言語学を専攻するほど「言葉」に対して興味を持ち、鋭い感性を持っていた馬締光也。

勤める出版社・玄武書房で国語辞典「大渡海」を刊行するメンバーの一人となり、クセのある同僚とともに辞書編纂に没頭していく姿が描かれます。

辞書編纂という特殊な仕事を、まるで擬似体験しているかのような気持ちになれるのが面白い。中学生が普段使っている「国語辞典」がどうやって出来ているのかを知ることができる点でも、おすすめです。

小学生おすすめ小説

「ルドルフとイッパイアッテナ」　斎藤洋

小説を読んだことがない小学生には、読みやすい作品からスタートするのがおすすめです。

人気作品「ルドルフとイッパイアッテナ」は、黒猫ルドルフがひょんなことから長距離トラックで東京にきてしまうことから始まる名作児童文学です。

猫が主人公という点が、小学生でも親しみやすいですよね。ルドルフが経験する、冒険や友情がユーモアたっぷりに描かれています。

「先生、しゅくだいわすれました」　山本悦子

主人公の小学生が宿題を忘れてしまい、口からでまかせのウソで言い訳をすることから始まる人気小説「先生、しゅくだいわすれました」。

担任のえりこ先生は怒るのではなく、「ウソをつくならもっと上手につかなくちゃ!」と言ったことから、子どもたちはわざと宿題を忘れて言い訳を考えるようになる、ユーモアたっぷりな物語。挿絵もある小説なので、小学生低学年にもおすすめ。

「飛ぶ教室」　エーリヒケストナー

1933年にドイツで発表された児童文学小説「飛ぶ教室」は、小学生におすすめしたい小説の中でも名作中の名作です。物語の舞台はクリスマス時期の寄宿舎。

ボクサー志望のマッツ、貧しくも秀才のマルティンなど、個性たっぷりな5人の少年たちが過ごす、かけがえのない日々が描かれています。大人になってから読んだ人々が、「小学生の頃に読みたかった」と思うほど人気作品です。

小学生おすすめ小説

「くちぶえ番長」　重松清

人気作家・重松清の小説は大人にもファンが多いですよね。
日常を切り取ったような馴染みやすい作品が多く、中でも小学4年生が主人公の「くちぶえ番長」は小学生におすすめの1冊。

小学校4年生のツヨシと、くちぶえが得意な転校生の女の子・マコトの友情物語です。友情だけでなく、人の死や別れといった喪失感が、小学生の心に寄り添うように描かれているおすすめの作品です。

「びりっかすの神様」　岡田淳

小学生の始は、転入先のクラスで背中につばさのある男を見つける。

その男はビリの人にだけに見える神さまだったという、なんともワクワクする名作小説「びりっかすの神様」。

クラスメイトたちは神さまを見たいがために、テストでわざと悪い点数をとるようになるのですが、やがて競争や勝敗について考えるようになります。勝ち負けだけが大切ではないことを教えてくれる作品です。

「チョコレート戦争」　大石真

初版の1965年から、様々な時代の小学生に読まれ続けている名作小説「チョコレート戦争」。町一番のケーキ屋さんのガラスが割れ、偶然居合わせた子どもが身に覚えのない罪をきせられてしまう…。

「おとなはなんでぼくたちのいうことを信じないの？」と、自分たちの無実を証明するために奮闘する物語です。テンポが良く、小学生でも最後まで飽きずに読み切れます。

「となりの火星人」　工藤純子

コミュニケーションが苦手なかえで、勉強はできないけれど明るい湊。この小説に出てくる小学生はみんな「生きづらさ」を抱えています。

ですが、「困った子」なのではなく、みんな「困っている子ども」。みんな違って当たり前、自分の個性を大切にしながら生きる楽しさに気づける作品です。困っている小学生にも、そうでない小学生にも読んでもらいたい名作です。

「魔女になりたい！」　ルームサイムズ

児童養護施設で育ったベラは、生まれた日から「魔女になりたい」と本気で願っています。

ある日、リリスさんという素敵な養母候補が現れ、ベラの人生が急展開。普通の女の子だったベラが、魔女の見習いを始める可愛らしいお話です。挿絵もたっぷりなので、絵本感覚で読み進められます。

「霧のむこうのふしぎな町」　柏葉幸子

小学生が待ちに待っている夏休みに、6年生のリナが1人で旅に出る物語「霧のむこうのふしぎな町」は、主人公と同年代の小学生5年生、6年生の高学年女子におすすめの小説です。

霧の谷の森のむこうでリナが出会った、へんてこりんな人々との交流がみずみずしく描かれています。ジブリ映画の名作『千と千尋の神隠し』にも影響を与えた、人気ファンタジー作品です。

「長くつ下のピッピ」　アストリッド・リンドグレーン

『あしながおじさん』にヒントを得て、作者のリンドグレーンが娘に向けて書いた小説「長くつ下のピッピ」。
赤　毛のツインテールのピッピは、様々なグッズも販売されているため、知っている小学生もいるかもしれません。

小説の表紙にもあるように、キャッチコピーは「世界一つよい女の子」。力持ちで優しくて、自由奔放に生きるピッピは、小学生女子の憧れの存在になるはずです。

「ハッピーノート」　草野たき

優しい色合いの表紙に惹かれる小説「ハッピーノート」は、少しずつ大人へと近づいている小学生高学年女子におすすめしたい1冊。

小学生でも塾でも、思うように自分を出せずにいる小学6年生の聡子が、密かな思いを寄せる霧島くんと仲良くなろうと頑張るうちに、周囲との関係も変わっていくストーリー。小学生なら誰にでもあるような、心の奥にあるモヤモヤがちょっぴりスッキリする作品です。

「ジゼルがくれた魔法の力 氷の上のプリンセス」　風野潮

近年、人気スポーツとして注目されているフィギアスケートをテーマにした、小学生女子向けの小説。

小さい頃からフィギアスケートを習ってきた主人公のかすみちゃんが、挫折を経験しながらも「氷の上のプリンセス」を目指す成長物語です。

フィギアスケートだけでなく、母親との関係や友達との関係など、小学生が共感できる内容になっています。フィギアスケートを知らない小学生にもおすすめです。

「ラブ・レター」　あさのあつこ

ちょっぴり背伸びがしたい小学生高学年の女子には、大好きなクラス名に手紙を出そうとする主人公・愛美の純粋な想いを綴った「ラブ・レター」がおすすめ。

最近ではメールやLINEが当たり前の時代になっていますが、自分でペンを握って文字を書き、便箋に想いを込めることも知っておいてほしいですよね。爽やかで甘酸っぱく、そして読み終えた後も心地よい人気作品です。

「バッテリー」　あさのあつこ

野球をテーマに書かれた作品「バッテリー」シリーズは全6巻あり、延べ1000万部を超えるベストセラー小説です。

飛び抜けた才能で自信家のピッチャー・巧は、キャッチャー・豪と出会ったことでバッテリーを組み、ともに成長していく1年間の物語。

やや厚めの小説本なので、小学生高学年におすすめです。野球を頑張っている小学生男子には、ぜひ1度読んでほしい作品でもあります。

「きまぐれロボット」　星新一

読書があまり好きではない小学生には、「ショートショートの神様」と呼ばれる小説家・星新一の「きまぐれロボット」がおすすめです。

お腹が空いたら料理を作り、話し相手にもなってくれるロボットと博士が繰り出す、ちょっぴりリアルだけどファンタジー要素もあり、ユーモラスたっぷりな物語に、思わずクスッと笑ってしまいます。短編の小説は読みやすいので、本を好きになるきっかけになります。

「二分間の冒険」　岡田淳

小学生の頃に読んだことがあるという大人も多い小説「二分間の冒険」は、今もなお読まれ続けている人気ファンタジー小説です。

物語は、主人公が不思議な黒猫に誘われて、子どもたちだけが住む世界に迷い込んでしまうことから始まります。

予想外の展開の連続の中で、子どもたちは「一番確かなもの」を探していく冒険ストーリー。小学生高学年の読書感想文にもおすすめです。

「マインクラフト はじまりの島」　マックス・ブルックス

スマホやゲーム好きな小学生男子には、世界中で人気のゲーム『マインクラフト』初のオフィシャル小説がおすすめです。

自分の記憶を失った上で、なにもかもがブロックでできたマインクラフトの世界に放り出されてしまった「ぼく」。

様々なピンチが訪れるが、自分がいる世界のルールを学び、危機を乗り切るストーリーは、現実世界で生きていくためにも大切なことを教えてくれます。小学生高学年の読書感想文にもおすすめです。